

## 事務事業評価シート

事業番号	36		局名	都市建設局		
事業名	都市デザイン推進事業		部名	まちづくり計画部		
事業開始年度	平成22年度		課名	街づくり支援課		
根拠法令等	景観計画、景観条例		課長名	江成均		
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託又は指定管理（委託先又は指定管理者： コンサルタント調査委託 ） <input type="checkbox"/> 補助金（補助先： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）					
事業概要	目的 (何のために)	本事業は、本市の魅力ある景観の形成を、平成21年度に策定された景観計画に基づき、計画的かつ総合的に進めるための事業である。				
	対象 (誰・何を対象に)	(公共施設サイン整備指針策定) ・市内の公共施設等を利用する人 ・公共施設管理者 (景観形成重点地区の指定) ・重点地区内で建築行為等を行う人 ・市内に居住や活動されている人・団体 (景観資源の指定) ・市内に居住や活動されている人・団体				
	事業内容 (手段・手法など)	(公共施設サイン整備指針策定) ・公共施設等の利用者を、目的地まで分かりやすく案内・誘導するため、公共施設のサインの整備指針を見直す。改正に際しては、庁議、景観審議会、パブリックコメントなどの手続きを経て策定する。 (景観形成重点地区の指定) ・景観計画・条例に基づき積極的な景観形成を図る景観形成重点地区の方針や基準を示し、規制・誘導を図るためパンフレットを作成する。 (景観資源の指定) ・外観が優れた建造物、地域のシンボルとなっている樹木、良好な眺望の場などを景観計画・条例に基づき、景観資源として指定し、保全・活用を推進するためパンフレットを作成する。				
	事業の必要性	(公共施設サイン整備指針策定) ・現行の指針は、平成9年に策定されたもので、その後、バリアフリーに係わる法改正、景観法の施行、市町合併等により、現行の指針では対応しきれない状態にあり見直しが必要である。 (景観形成重点地区の指定) ・景観計画・条例に基づく地区独自の景観の手続きや基準を分かりやすく周知・解説するため作成が必要である。 (景観形成重点地区の指定) ・外観が優れた建造物、地域のシンボルとなっている樹木、良好な眺望の場などを景観計画・条例に基づき、景観資源として指定し、将来にわたり、積極的に保全・活用を推進するため作成が必要である。				
コスト			平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
	事業費(直接経費)		3,746 千円	5,640 千円	5,851 千円	
	人件費	正規職員	従事者数	2.5 人	1 人	1.5 人
			概算人件費	18,163 千円	7,265 千円	10,898 千円
		嘱託職員・臨時職員等	従事者数	0 人	人	人
			概算人件費	千円	千円	千円
	人件費 合計		18,163 千円	7,265 千円	10,898 千円	
総事業費		21,909 千円	12,905 千円	16,749 千円		
市民一人あたりの事業費		0.03 千円	0.02 千円	0.02 千円		

		平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度予算	
財源内訳	国・県支出金	0千円	0千円	0千円	
	受益者負担金	0千円	0千円	0千円	
	その他( )	0千円	0千円	0千円	
	一般財源	3,746千円	5,640千円	5,851千円	
平成23年度事業費の主な内訳(人件費を除く)	項目			金額	
	公共施設サイン整備指針策定調査委託			3,906千円	
	印刷製本費(重点地区パンフレット、景観資源パンフレット)			1,200千円	
	都市デザインアドバイザー謝礼			300千円	
活動実績1	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
単位当たりコスト1	(総事業費/活動指標)				
活動実績2	活動指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
単位当たりコスト2	(総事業費/活動指標)				
成果目標 (現状の成果及び今後どのようにしたいか、定量的な評価で示す)	<p>景観計画の成果指標より</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然的な景観が保たれていると感じる市民の割合を増やす。</li> <li>・市街地の景観が良好に保たれていると感じる市民の割合を増やす。</li> <li>・歴史や伝統文化を生かした景観が良好に保たれていると感じる市民の割合を増やす。</li> <li>・街づくり活動団体数を増やす。</li> <li>・景観形成重点地区の指定数を増やす。</li> <li>・接道緑化した延長数を増やす。</li> <li>・地域景観資源の指定数を増やす。</li> <li>・景観に関わる市民リーダーの数を増やす。</li> </ul>				
成果実績	成果指標名	単位	H21年度実績	H22年度実績	H23年度見込
	自然的な景観の満足度	%	—	72.5	
	市街地の景観の満足度	%	—	88.1	
	接道緑化した延長数	m	—	1012.9	
特記事項 (事業の沿革等)					
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	<p>景観計画・条例については、平成22年4月からスタートをし、条例に基づく事前協議や法に基づく届出等については、周知期間をおき昨年10月から施行となっており、周辺の景観に影響が大きい一定規模の建築物・工作物等について、景観誘導指針や行為の制限に係わる指導・助言等を行っている。</p> <p>また、特に積極的な景観形成を行なう地区として地区住民の合意形成を図りながら、独自の景観形成を行っていくものであることから区役所や各地区のまちづくりセンターなどを通じて周知を図り、勉強会などを行っている。</p> <p>それに加え、地区の景観特性を踏まえた歴史的な建造物などの地域のシンボルや市民に親しまれている資源を「地域景観資源」として指定し、その保全・活用を図ることなどを通じて、相模原らしい魅力ある景観形成を進めていきたいと考えている。</p>				
評価	《評価の視点》	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない</li> <li>・ 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない</li> <li>・ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない</li> </ul>			
	《評価の区分》	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充			
	《評価区分の理由》	<p>ゆとりのある住環境や魅力のある観光を促進する上で、景観は重要な要素であり、良好な景観の維持や新たな景観の形成は必要である。また、市民を対象に実施している「まちなみウォッチング」については募集人数を大きく上回る市民が応募するなど、景観に対する市民の意識も高まってきていると思われる。</p> <p>しかしながら、更なる景観形成に対する取組の強化望まれていることから、市民への意識啓発や他事業(街路整備事業や商業地形成事業など)と連動した事業展開を検討する必要がある。</p>			
H24年度予算への反映	H24年度予算額、職員定数共に現状の範囲で取組の強化を図る。				
経営評価委員会による意見	<p>●拡充 ⇒ 現状維持</p> <p>事業の必要性は認めるが、拡充が必要と認められるほどの説得的な議論は展開されていない。</p>				